

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第9回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

・令和4年度地域活動支援事業の採択方針等の検討について

(2) 自主的審議事項（公開）

・委員研修について（振り返り）

3 開催日時

令和4年2月25日（金）午後6時30分から午後8時07分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫、高橋清司
（副会長）、立入真太郎、田中利夫、松山公昭（欠席3人）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長

8 発言の内容（要旨）

【小林センター長】

・会議の開会を宣言
・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

・挨拶

【小林センター長】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：立入委員

次第2 議題「(1) 協議事項」の「令和4年度地域活動支援事業の採択方針等の検討について」に入る。事務局より説明を求める。

【小林センター長】

- ・資料1～4に基づき、事務局案を説明

【青木会長】

全体を通して何か意見はあるか。

【松山委員】

資料4の「津有区」とあるが、「高土区」の誤りではないか。

【小林センター長】

指摘のとおり「高土区」が正しい。修正させていただく。

【立入委員】

資料1の4ページに「2者」とあるが「2社」の誤りでないか。

【小林センター長】

市の契約事務では「者」を使用することが一般的であるため、ご理解願いたい。

【松山委員】

「応募の手引き」に「地域活動支援事業は今年度が最終」と記載してはどうか。

【小林センター長】

指摘の件は報道等で知られているが、令和5年度事業の不確定な部分である。また今は、令和4年度の応募の手引きの審議であり、この段階で掲載できないことを理解いただきたい。

【青木会長】

改めて確認するが、資料1について修正なしでよい委員は挙手を願う。

(全員挙手)

資料1は修正なしで決定とする。次に資料2は修正なしでよいか。

(よしの声)

資料2は修正なしで決定とする。次に資料3は修正なしでよいか。

(よしの声)

資料3は修正なしで決定とする。次に資料4は修正なしでよいか。

(よしの声)

全ての項目で修正なしと決定する。

以上で次第2議題「(1) 協議事項」の「令和4年度地域活動支援事業の採択方針等の検討について」を終了する。

次に次第2議題「(2) 自主的審議事項」「委員研修について(振り返り)」に入る。
事務局より説明を求める。

【小林センター長】

・資料5について説明

【青木会長】

資料5を元に、当日出席した委員から当日の感想や、印象に残った話題、気づきのあった点について発言いただく。

【上野委員】

私は仕掛けが大事であるとして、公民館事業「きっず体験」の中で子供たちに何がしたいかを聞いたところ「パスタが食べたい」と言われ、企画している話をした。

これは講師から良い取組だと評価され、小学生は関係人口だと言われた。広場の活用についても子供たちを主にして考えてみたい。

【玄蕃委員】

「負のスパイラル」の話が大きいと感じた。これは全国的な傾向である。高士も負のスパイラルが回り始めているが、逆に少しでも楽しもうとすると良い方向に進む。

ポイントは子供だと思う。子供の後に大人が付いてきて、交流人口が増えると、人が育ってくる。

また講師は小さなことから始めるように言われた。とにかく繋げていくことである。地域活動支援事業の募集テーマでスポーツ広場の活用を呼びかけるのも良い。今回はしないが、いずれにしても視点を広げることが大事だと感じた。

コロナ禍で体育祭も夏祭りもなくなった。何かあの場所でできないものかと思う。

【青木会長】

私も地区単位で行われている体育祭のような行事は、高士区をトータルしてやれたら良いと思う。

【杉田委員】

アイデアは既に色々出ているが、仕掛け人を誰にするかが難しい。やること自体が楽しくないと続かない。仕掛ける人が楽しくやって後につながるような活動が望ましいと考える。

【田中委員】

何もないところなので施設整備を先行して考えていた。しかしまず何をやるかが大事であり、やりながら必要なものを徐々にそろえていく。何をやるか、それを決めてから何が必要かを考えることが現実的だと思った。

【松山委員】

講師からは、私たちがやってきたことを上手にまとめていただいた。またSNSの利用は参考になった。アイデアはたくさんあるので、コーディネートしてくれる人の存在が大事である。高士ルミネに関わった人を活用すべきである。

【高橋副会長】

どんな事業をどんな形で、皆が集う場所にしなければいけないのか、その具体策を先行して考え過ぎていた。講師は、完成することは無理であり、完成しないと言っていた。

体育館は撤去されたので、協議会委員で現地を再度確認してはどうか。また、事業を展開している団体の皆さんからも同行いただいて、何か発信していただけたら良い。みんなの考えを共有出来れば良いと思った。

【青木会長】

やれることを先ずやってみる、失敗しても良い。関係人口を広げるには、新しい行事にこだわらず、既存の行事をスポーツ広場に場所を変えてやってもらうことでもよいのではないかと。子供を集めることも同時に考えるべきだと思った。

【井澤委員】

出席した委員の感想を聞きながら、「旧高士中学校跡地をどうするか」の発想であって、これは永遠の課題なのだと思った。委員全員で話し合っていくことで、講師が言うように、少しずつでも前に進めていけたらよいと思う。

【松山委員】

令和4年度地域活動支援事業の募集の手引きに「スポーツ広場の活用を検討してみないか」と記載し、区民に知らしめてみてはどうか。また小学生の体験教室のような良い活動は、地域活動支援事業に取り上げてみてはどうか。

スポーツ広場は、様々な活動に使用できるようにインフラ整備をすれば、先が見えてくると思う。

【玄蕃委員】

先ほど、募集の手引きについては、修正なしで一旦決定しているので変えるべきではない。ただし決定済みの文言には解釈の幅があるため、追記はしなくても、事前説明会の席上で、同様の言葉を一言添えていただだけで、今年は良いのではないか。協議会として活用策が何も決まっていない段階であるため、説明会で何か感じてくれる人がいれば良いと思う。

【青木会長】

次回に向けて、本日の意見を反映させ、正副会長と事務局で議題を検討したい。

【小林センター長】

本日の意見を反映させつつ、前回会議で示したスケジュールと重ね合わせて、事務局では小学生を対象としたアンケートに取り組むことを提案する。次回会議で設問内容や分析の方法について審議をお願いしたい。

【青木会長】

以上で次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「委員研修について（振り返り）」を終了する。

次に次第 3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：3月23日（水） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・ 内容：自主的審議事項

【高橋副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【青木会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。